

平成24年度 第3回英語学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年8月27日（月）17：30～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：山本涼一委員長、田中宏明副委員長、五十嵐義行委員、北出亮委員、
小林悦雄委員、原田康也委員、西納春雄委員（ネット）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 検討事項

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

- ・学士力の解説

1. 学士力の背景について

学士力を設定した背景について、委員より作成された案を読み合わせ、内容に関する説明がなされた。授業の内容や方法、各到達目標については言及せず、背景認識を整理考慮して検討し、文章が作成された。

以下に主な意見を列挙する。

- ・大学の英語教育はどのようなことを目指さなければならないのか。高校と大学の英語教育の違いを明らかにし、その上で、社会の要請に応じた英語力というものをどのように考えたか記述してはどうか。
- ・大学教育では、英語だけのインディペンデントの教育でなく、専門分野と連携した統合型の英語教育を実現しなければならない。
- ・中等教育、大学教育での問題点を明確にしたほうがよいのではないか。どのようなことに対して不十分であったか、大学教育での反省を含め、十分でなかったことを記述してはどうか。
- ・社会が求めるのは英語を活用して世界で活躍できる人間である。英語の力と専門の力を合わせ、活用できなければならない。そこまで質保障することが大学の役割であり、高校教育と違う点である。
- ・高校は英語を使うためのルールを教え、大学では英語をより実践的に使い、相手を説得し、インパクトある提案をするなど視点が違う。
- ・英語検定試験（TOEIC、TOEFLなど）対策だけの授業でないことを記述してはどうか。
- ・大学では専門分野と協働するということに意味があるので、そこを明確にしたほうが良いのではないか。
- ・英語教育と専門教育を融合し、実践的に世界に通用しなければならない。大学教育の目標はそれに絞ってもいいのではないか。
- ・国際社会が大学教育に求めているものや大学教育の現状の問題を記述してはどうか。

- ・専門教育とコラボレーションして、その専門分野において実践的に英語を身につけ、国際社会の中で実際に活動できる人間を育成することが英語教育の目標である。
- ・企業で働く人だけでなく、すべての人が英語の能力が必要である。
- ・人は情報を得て、より豊かな人生を送れるようになるのではないか。情報はかなりの部分が英語で流れているため、それを自分なりに見極め、欲しい情報にアクセスし、それを理解できることが大きな豊かさにつながるのではないか。
- ・世の中では実践的な英語能力が求められているが、その期待に応えられていない。英語の活用能力なくしては生活できないところまできているが、現状はそれに対応していない。だからこそ大学の英語教育が変わらないといけない。
- ・「世界共有言語としての英語の活用力」の文言をいれた方がよい。
- ・高校までの英語教育では、コミュニケーション能力を身に付け、国際理解力を養う現在の社会的要求に対応できない。従って、大学ではどのような教育をするかを記述してはどうか。
- ・初等、中等教育だけでなく、大学にも問題はあある。大学を卒業しても十分な英語活用力が身に付いていないのが現状である。
- ・初等、中等教育と大学教育にわけて、高校までの延長線上にある教育として振り返ってみてはどうか。
- ・なぜ、大学教育で英語活用力が身につかなかったのか、現状の反省とあるべき姿を記述。
- ・英語を活用する積極性が乏しい。卒業しても日常生活や社会生活の中で、英語を情報の手段として活用し、世界的な視野で行動することができないのが現状である。

2. 到達目標の解説について

3つの到達目標（1. 英語の基本語彙や基本文法をもとに、より高い技能と運用能力を身に付けている、2. 英語で情報を理解して考えをまとめ、対話を通じて情報・意見などの交換ができる、3. 専門分野の必要性に応じて、適切なレベルの英語語彙・英語表現を使用できる）の解説について、委員より作成された案をもとに、どのような知識を身につける必要があるか、どのような教育が必要かを検討し、文章が作成された。

V. 今後のスケジュール

- ・授業改善モデルに図を追加する。

教育改善モデル（その1）

「3. 改善モデルの授業の点検・評価・改善」評価シートを作成。

教育改善モデル（その2）

「2.2 授業の仕組み」協働教育の関係性の図を作成。

- ・次回委員会：平成24年9月29日（土）11：00～

以上